

みずほマーケット・トピック(2024 年 7 月 5 日)

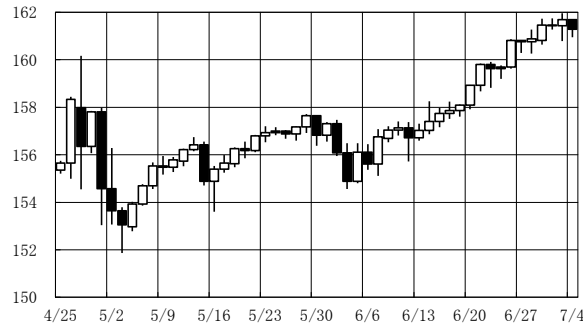
内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。	

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

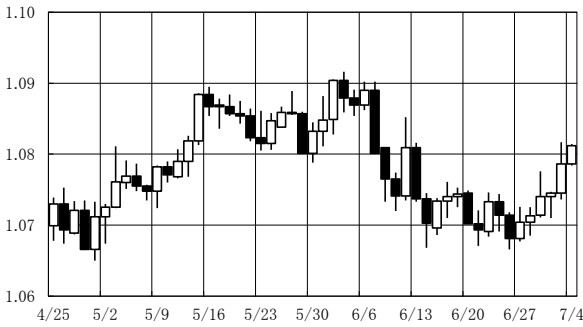
- 今週のドル/円は続伸も、政府・日銀による円買い介入への警戒感が高まる中で、上値重く推移した。週初1日、160.94円でオープンしたドル/円はユーロ/円の上昇に連れてじり高。海外時間は、米6月ISM製造業景気指数の弱い結果を受け瞬間的に下落する場面もあったが、米金利が続伸する中で、161円台半ばに上伸した。2日、ドル/円は日本株の堅調推移を横目に161円台後半でじり高。海外時間は、パウエルFRB議長による「デシインフレの軌道に戻りつつある」などの発言がハト派的と受け止められ、米金利低下と共に一時161円台前半まで下落。ただしその後、米5月JOLT求人件数の良好な結果が材料視され、161円台半ばに値を戻した。3日、ドル/円は円売り相場の中でじり高。海外時間は、約38年ぶりの高値となる161.96円に上昇するも、米6月ISM非製造業景気指数など複数の米経済指標の弱い結果を受け米金利が低下し、一時161円を割り込んだ。もっとも円買いは続かず、直ぐに161円台後半に値を戻して引けた。4日、ドル/円は翌日に米6月雇用統計の発表を控えてポジション調整の動きからじり安。海外時間は、米国休場で市場参加者が少ない中で、ドル売りの流れを受け一時161円を割り込むも、引けにかけては161円台前半に値を戻した。本日のドル/円は、神経質な相場環境で円を買う動きが見られ、161円付近で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは、仏政局を巡る不透明感が一巡する中で、週半ばから後半にかけて上昇した。週初1日、1.0735でオープンしたユーロ/ドルは、仏下院選挙を巡る不透明感が後退し1.07台後半まで上伸後、独6月消費者物価指数(CPI、速報)の弱い結果や米金利上昇が重しとなり、1.07台前半にほぼ往って来いとなった。2日、ユーロ/ドルは欧州株安に連れて週安値の1.0710まで下落後、米金利低下が支援材料となり1.07台半ばに反発した。3日、ユーロ/ドルは複数の米経済指標の軟調な結果を受けた米金利低下が好感され1.0817に上伸も、その後は米金利の上昇幅縮小が嫌気され、1.08を割り込んで引けた。4日、ユーロ/ドルは引き続き仏政治を巡る不透明感が後退する中、欧州株価の堅調推移や全般的なドル売りの流れが好感され、1.08台前半にじり高となった。本日のユーロ/ドルは、週高値を更新しながら取引されている。

		前週末	今 週			
		6/28(Fri)	7/1(Mon)	7/2(Tue)	7/3(Wed)	7/4(Thu)
ドル/円	東京9:00	160.71	160.94	161.51	161.46	161.60
	High	161.27	161.72	161.74	161.96	161.70
	Low	160.27	160.65	161.28	160.76	160.95
	NY 17:00	160.89	161.49	161.48	161.72	161.33
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0707	1.0735	1.0737	1.0749	1.0792
	High	1.0724	1.0776	1.0747	1.0817	1.0814
	Low	1.0686	1.0718	1.0710	1.0736	1.0784
	NY 17:00	1.0713	1.0741	1.0746	1.0788	1.0813
ユーロ/円	東京9:00	172.06	172.76	173.48	173.56	174.28
	High	172.44	173.68	173.58	174.48	174.45
	Low	171.50	172.49	173.11	173.51	173.83
	NY 17:00	172.37	173.45	173.50	174.42	174.45
日経平均株価		39,583.08	39,631.06	40,074.69	40,580.76	40,913.65
TOPIX		2,809.63	2,824.28	2,856.62	2,872.18	2,898.47
NYダウ工業株30種平均		39,118.86	39,169.52	39,331.85	39,308.00	-
NASDAQ		17,732.60	17,879.30	18,028.76	18,188.30	-
日本10年債		1.04%	1.06%	1.08%	1.10%	1.08%
米国10年債		4.39%	4.47%	4.44%	4.35%	-
原油価格(WTI)		81.54	83.38	82.81	83.88	-
金(NY)		2,339.60	2,338.90	2,333.40	2,369.40	-

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、11日(水)に米6月消費者物価指数(CPI)が公表される。5月の結果は+3.3%(前年比、以下同様)と市場予想および4月の+3.4%を下回った。また、食料品とエネルギー価格を除いたコアベースでは、+3.4%と市場予想の+3.5%を下回り、4月の+3.6%から伸びが鈍化。非コア項目では、エネルギー価格が+3.7%と3か月連続でプラス寄与となった。他方コア項目では、コア財価格が▲1.7%と5か月連続でマイナス寄与となった一方、コアサービス価格は+5.3%と高水準での推移を継続している。とはいえ、FRBが重視する居住費除くコアサービス価格は、ブルームバーグの試算によれば+4.83%と5か月ぶりに伸びが減速に転じており、インフレ再加速懸念はいったん後退したと評価できる。なお、6月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+3.1%、コアベースで+3.4%と見込んでいる。
- 本邦では、8日(月)に5月毎月勤労統計が公表予定。前回4月の結果に関し、現金給与総額(名目賃金、前年比)は+1.6%と28か月連続で増加した。正規労働者の所定内給与は+2.3%と相応の伸びを記録したものの、所定外給与下落が大きく、全体の伸びは抑制されている。一方、実質賃金は、4月には▲1.2%と25か月連続で減少を記録。引き続き家計の実質所得環境が悪化し、個人消費が減速する構図が定着している。かかる中、3日に連合は本年春闘の最終集計を公表しているが、結果は平均賃上げ率が+5.10%と33年ぶりの高水準となった。中小企業で見ても、+4.45%とそれなりの強さとなっており、これ自体を前向きに捉える報道は非常に多い。今後賃金改定を経て徐々に毎月勤労統計に反映される中で、当面は同統計の注目は高まるだろう。当然、弱い結果となった場合、先行きにおける物価と賃金の好循環の実現を前提に緩やかな利上げ路線を示唆する日銀にとって、悪材料になる。なお、5月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、名目賃金を+2.1%、実質賃金を▲1.1%と見込んでいる。

	本 邦	海 外
7月5日(金)	・5月家計支出 ・5月景気動向指数(速報)	・独5月鉱工業生産 ・ユーロ圏5月小売売上高 ・米6月雇用統計
8日(月)	・5月毎月勤労統計 ・5月国際収支 ・6月景気ウォッチャー調査	・独5月貿易収支 ・ユーロ圏6月センチックス投資家信頼感
9日(火)	・6月工作機械受注(速報)	・米6月NFIB中小企業楽観指数 ・米パウエルFRB議長議会証言(10日まで)
10日(水)	・6月国内企業物価指数	・米5月卸売在庫(確報)
11日(木)	・5月コア機械受注	・独6月消費者物価指数(確報) ・米6月消費者物価指数
12日(金)	・5月鉱工業生産(確報) ・5月設備稼働率	・独5月経常収支 ・米6月生産者物価指数 ・米7月ミシガン大学消費者マインド(速報)

【当面の主要行事日程(2024年7月～)】

ECB 政策理事会 (7月18日、9月12日、10月17日)
 日銀金融政策決定会合 (7月30～31日、9月19～20日、10月30～31日)
 FOMC (7月30～31日、9月17～18日、11月6～7日)
 ジャクソンホール経済シンポジウム (8月22～24日)

金融市場部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年7月4日	円安功罪論について～総論と各論を分けるべし～
2024年7月3日	短観(6月調査)が意味するもの～利上げは可能か～
2024年7月2日	フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月1日	24年上半期を終えて～円は正真正銘の最弱通貨～
2024年6月28日	週末版
2024年6月27日	家計金融資産の現状～外貨比率は最高値更新へ～
2024年6月25日	「隠れ円安」への正しい理解～実効円安を見る努力を～
2024年6月24日	為替政策報告書～日本のリスト入りは形式上の不備～
2024年6月21日	週末版(欧州委員会による財政是正措置勧告～フランス極右政党 vs. 欧州委員会～)
2024年6月19日	本邦5月貿易収支を受けて～思ったよりも減らない赤字～
2024年6月18日	久しぶりの欧州政治騒動～27年まで波乱無しが基本に～
2024年6月17日	日銀金融政策決定会合を終えて～上がる期待値～
2024年6月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年5月分)
	週末版
2024年6月13日	FOMCを終えて～中立金利上昇と為替見通し～
2024年6月12日	既に前年実績を超えてしまった「家計の円売り」
2024年6月11日	懸念される旅行収支黒字の頭打ちという未来
2024年6月10日	円相場の需給環境について～4月までの総括～
2024年6月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利下げ局面入りへ～)
2024年6月5日	証券投資は巻き返すか?～収益率で考える未来～
2024年6月4日	敗れて考える対内直接投資促進の「負の側面」
2024年6月3日	強含む経済指標に囲まれるECB～ユーロ相場の考え方～
2024年5月31日	週末版
2024年5月29日	虚しく響く「33年連続、世界最大の対外純資産国」の肩書き
2024年5月28日	「This time is different」は利上げ予告か～内田講演～
2024年5月27日	加速したユーロ圏妥結賃金とECBブログの言い分
2024年5月24日	週末版
2024年5月23日	金利差縮小でも円安修正は進まず～議事要旨を受けて～
2024年5月22日	「もしトウ」で注目される欧州の立ち回り
2024年5月21日	ユーロ圏経済の近況～「底入れ」という不都合な真実～
2024年5月20日	垣間見えたECBの「次の一手」～ECB理事インタビュー～
2024年5月17日	週末版(色濃くなるスタグフレーションの様相～窮屈になる日銀の政策環境～)
2024年5月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年4月分)
	円安抑止の処方箋～即効性と持続性のトレードオフ～
2024年5月14日	通貨政策化する金融政策～定着する「為替との戦い」～
2024年5月13日	i～3月期国際収支統計～需給改善を確認～
2024年5月10日	週末版
2024年5月9日	遂にインフレ税が始まったのか?～円安と債務～
2024年5月8日	FRBの「次の一手」と円相場の予想バスのについて
2024年5月7日	円安抑止の処方箋～NISA国内投資枠～
2024年5月2日	週末版(レバトリ減税について～「5%の摩擦」に拘るべき～)
2024年4月30日	日銀が「回避した為替との戦い」、今後のリスク
2024年4月26日	週末版
2024年4月25日	トランプ氏と為替～結局、何も考えていない?～
2024年4月23日	世界経済の下方シフトの背景にあるもの～IMF分析～
2024年4月22日	ドル高是正の国際協調に機は熟せず～G20とドル高～
2024年4月19日	週末版
2024年4月18日	IMF世界経済見通しを受けて～またも「分断」はテーマに～
2024年4月17日	前途多難な貿易収支～待たれる電源構成の変化～
2024年4月16日	最悪のシナリオは米利上げ再開～中東リスクと円安
2024年4月15日	依然赤字圏のCFベース経常収支～原油価格騰勢の足音～
2024年4月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年3月分)
	週末版(ECB政策理事会を受けて～6月利下げはほぼ既定路線へ～)
2024年4月11日	「でこぼこ道」が「再燃の入口」か～米3月CPIを受けて～
2024年4月10日	過去最高ペースだった「家計の円売り」～Q1を終えて～
2024年4月9日	対内直投のキーワードは「資本はアジア、業種は金融・保険業」へ
2024年4月8日	独歩安だった円相場～第1四半期振り返り～
2024年4月5日	週末版
2024年4月4日	ECBは6月利下げに向けて第一関門突破
2024年4月3日	外貨準備構成通貨の近況について(2023年12月末時点)
2024年4月2日	デジタル強国アイルランドの存在感をどう考えるか?
2024年4月1日	デジタル赤字は日本だけの問題なのか?
2024年3月29日	週末版
2024年3月27日	円安・円高双方のリスクになる連続利上げ
2024年3月25日	23年末資金循環統計を受けて～株・外貨共に過去最高目前～
2024年3月22日	週末版(FOMCを受けて～少なくなるドル/円相場の「押し目」)
2024年3月21日	「債券市場への優しさ」が助長した円安～日銀決定を受けて～
2024年3月18日	「噂で売って、事実でも売り」になりそうな円相場
2024年3月15日	週末版(「家計の円売り」は3月も続くのか?～試される個人投資家の芯～)
2024年3月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年2月分)
2024年3月13日	春闘と円高リスク～「異例の買上げムード」というリスク～
2024年3月12日	最近の国際収支の状況について～CFでは初月赤字～
2024年3月11日	最大の円高リスクは日銀の連続利上げ
2024年3月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月まで材料なし～)
2024年3月6日	世界の株価指数から見えるもの～中進国の容疑～
2024年3月5日	ユーロ圏の賃金・物価情勢～妥結賃金は年内4%台か～
2024年3月1日	週末版(マイナス金利解除と円相場の関係性～ドル/円相場、数少ない押し目の考え方～)
2024年2月27日	ユーロ圏の現状と展望～金利と需給から～
2024年2月26日	日経平均株価上昇の理由～インフレの帰結～
2024年2月22日	週末版
2024年2月21日	1月貿易収支を受けて～24年も円売り優勢変わらず～
2024年2月20日	日独GDP逆転の本質～為替要因だから良いのか?～
2024年2月16日	週末版
2024年2月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年1月分)
	本邦10～12月期GDPを受けて～総崩れ～
2024年2月14日	「新時代の赤字」と原油と同質性
2024年2月13日	投信経由の対外証券投資～滲む資産運用立国の未来～
2024年2月9日	週末版
2024年2月8日	仮面の黒字国～戻らぬ円とデジタル農奴～
2024年2月7日	PPPやREERをどう解釈すべきか～インフレ調整という未来～
2024年2月2日	週末版(ソフトランディングと賃金減速～正当性を帯びる「夏」の重要性～)
2024年2月1日	FOMCを終えて～為替市場が「狙う」次の獲物」～